奥武蔵

461
奥武蔵研究会
2025年（令和7年）7月

豆口峠の神送り場　画：三森かおる氏

或る日の高山不動尊

小泉 重光

本格的な夏山シーズンを迎え、出かける機会の多くなる季節となりました。しかしながら近頃は温暖化のせいか、八月に限らず真夏日が続くことも多くなりました。とくに当会がフィールドとしている奥武蔵や秩父では、気温の上昇が顕著なものになっています。荷物が増えてしまうのは嫌なものですが、充分な水分量を確保しつつ、熱中症に対応した山歩きを心掛けていただければと思います。

さて先日、会山行で久しぶりに「四寸道」を歩いたのですが、人気のなくなった不動堂に佇みながら、ふと賑やかな頃の高山不動尊を思い出しました。それは私がまだ入会していない二十数年前のこと、黒山の知人に「高山不動尊で火渡りすんべぇ」と誘われました。当時は火渡りなどは特別な修験者がするもの、という認識だったのですが、知人曰く「心配ねえ、お婆さんだって渡たってるん」という話を真にうけて、早朝から高山不動尊へと出かけたのです。

高山不動尊の前住職がお元気だった頃は、午前中に柴燈護摩を執り行い、メインイベントとなる火渡り式が開始されるのは午後からでした。それまでは地元の味噌田楽に舌鼓を打ちながら、国宝の軍荼利明王像を見学するなどして時間を潰しました。やがて不動尊の石段下の広前にヒノキの葉が背丈ほども高く積まれ、修験者達がその廻りで「四方固め」を行い結界を張ります。そして積まれたヒノキの葉に火が付けられて、関係者に見物客を交えた七十人ほどの人々が、燃え上がる炎を見つめつつ般若心経を唱えます。

読経の渦巻く森厳な雰囲気のなか、勢いよく燃えたヒノキは赤い火床となり、抜刀した修験者達が気合いとともに次々とそこを通り抜けていきました。「はい一番札の人どうぞ」と促されましたが、どうも火力が衰えているようには見えません。仕方なく覚悟を決めて踏み出しましたが、三歩目からは憶えていません。けれども、あの異世界を垣間見るような体験を、今は何故か懐かしく思えるのです。

目次

第461号　令和7年7月

或る日の高山不動尊 …… 小泉 重光　表2
畏友 藤本一美さんを偲ぶ …… 町田 尚夫　1
守りたい春の使者 …… 坂口 由加里　7
秩父の山域を歩く …… 吉田 美知子　7
日影郷の龍谷山城と岡部氏 …… 小泉 重光　8
神楽山～山林火災 …… 梅津 準士　11

―山行報告―

丸山から日向山 …… 大川 満代　12
中間平から皇鈴山（釜伏峠旧道探索）… 小泉 重光　12
妙正寺川沿いを歩く …… 山野 曠一　14
花園城跡と猪俣城跡 …… 吉田 美知子　14
小持山のアカヤシオ …… 高橋 澄夫　16
山行集会「堂平山、山菜山行」…… 大川 満代　16
玉川上水を歩く …… 岡野 守　17
景信山から明王峠 …… 村木 悦子　18
御岳山 日の出山 …… 加藤 恒彦　18

山行計画 …… 20
山行集会案内 …… 20
会務報告 …… 22

奥武蔵　第461号
令和7年7月1日発行

発行者　小泉重光
発行所　奥武蔵研究会
〒175-0092 東京都板橋区赤塚7-18-7
編集者　小泉重光　加藤恒彦　成川茂雄
印刷所　㈱ヌーベル社